



心通わせ現地のやり方で

村人総出水を引く大事業 ネパール

もっと教えて SDGs



村人みんなが力を合わせ水を引く工事に取り組んだ＝2000年、ネパール・サチコール村

話し合い、自分たちの力でできるやり方で進めるのが支援のポイント」と訴えます。

3カ月かけて水道は完成。パイプを伝って水が村に届いたとき、みんな大歓声で喜びました。自分たちで引いた水道は、2015年のネパール大地震でも壊れず、今も使われています。

桜井さんは「支援してやるという上から目線ではうまくいかない。言葉が通じなくても心を通わせることが大事」と話します。

現在、新型コロナウイルスの影響でネパールとは行き来できません。桜井さんは「早くみんなに会いたい」と、サチコール村を再び訪問できる日を心待ちにしています。

1面から続く

登米市の桜井ひろ子さん(74)が垣見一雅さん(81)とネパールのサチコール村で始めた水を引く工事は、村人総出の一大事業でした。

わき水が出ている場所から村までは急な山道を2キロほど。水を通すパイプをどう設置するかなどをみんなで話し合い、垣見さんの指導の下、村人がパイプをつなぎ合わせました。大きな岩を動か

すときは、男性が一丸となって押ししました。

機械を持ち込み、水源にポンプを置けばもっと楽に水を引けたかもしれない。ただ、故障したときに自分たちで修理できず、放置されてしまふ心配があります。

垣見さんと桜井さんが不在でも自分たちで対応できるよう、現地に合わせてやり方を取り入れたのです。桜井さんは「日本の手法を押し付けると結局は失敗する。みんなで

取材を終えて——田岡 真紀さん

国際協力の第一歩教わる

「言葉が通じるよりも心が通じることが大切」という桜井さんの言葉が印象的でした。学び取ろうという気持ちがあれば、生活できるそうです。村の人と一緒に暮らし、

文化を受け入れ、課題と一緒に解決する。国際協力の第一歩を教わりまし



田岡 真紀さん

こども記者大募集

週刊かほピョンプレスはこども記者を募集しています。気になること、調べたいことを一緒に取材して記事を書いてみよう。グループでの応募も大歓迎。メールで連絡してね。アドレスはkyopro@po.kahoku.co.jp